

高等学校における学年通信の教育効果の調査研究
ー所属校のアンケート分析から校内発行通信の今後を考えるー
Research into the Educational Effects of Grade Newsletters in High School
- Considering the Future of School Published Newsletters Based on Survey Analysis-

福田浩三
Kozo FUKUDA
(兵庫県立伊川谷高等学校)

1. はじめに

学校内には教師が発行する通信(校内発行通信)として学級通信・学年通信・学校だより・進路だより・保健だよりなどがある。鈴木¹⁾(1995)は『学級通信・学年だよりが保護者との連携をはかるための方法として重要な位置を占めている』と述べ、吉成²⁾(2016)は『学級通信を定義すれば、「学校内外における子どもたちの学習や生活の様子について、保護者や子どもたちに伝えるために、主に学級担任が継続的に作成し、発行する通信類」となるでしょうか』とし、その発行を『法律に定められた先生の業務ではありませんが、(中略)諸外国にはあまりみられない、日本独特の教育活動のひとつとして評価されています』と記している。すなわち、校内発行通信とは、学校内の情報を児童生徒やその保護者へ伝達することを目的とした「教師が作成する新聞」であるといえる。そして、文部科学省の「学校現場における業務改善のためのガイドライン」³⁾(2015)では、「学校現場における教職員の業務実態の把握」において「学年・学級通信の作成、掲示物等の作成・掲示」が小学校で93.9%、中学校で83.9%を示すなど、多くの学校でこれら「教師が作成する新聞」が業務に準ずる形で作成されている実態が示されている。

しかし、近年の学校における働き方改革が求められる中、令和5年度文部科学省委託研究「公立小中学校等教員勤務実態調査研究」調査研究報告書⁴⁾(2024)では、「児童生徒の指導にかかわる業務」における「学年・学級経営」の項目に学年・学級通信作成を含め、教員への調査に用いた調査票の質問項目「学年・学級運営に関する業務改善

に関する以下の取組のうち、あなたが行っている取組を選択してください。(複数選択可)」において8つの選択肢の中に、

- ・学級通信や会議資料等の文書の簡素化
- ・学級通信等のオンライン配布
- ・学級通信等の発行回数の見直し

のように、学級通信関連の選択肢を3つ含めるなど、教員の過重労働解消にむけた「教師が作成する新聞」のあり方が大きく問われている。すなわち今後は、「教師が作成する新聞」である校内発行通信は、内容の簡素化や発行の縮小、廃止へと向かうことが容易に予測される。そのような状況の中、校内発行通信が果たしてきた教育的効果について調査研究することは、その発行の意義や持続性を考える上で非常に有益であると考えられる。

全国の学校現場における校内発行通信の発行状況と動向の詳細な調査研究として、学校における各種通信の実態と教育効果に関する調査研究会による「学校における各種通信の実態と教育効果に関する調査研究最終報告書」⁵⁾(2018)がある。この報告書は、全国の小中学校の一般教諭(有効回答数3210)、管理職(有効回答数1839)、保護者(有効回答数541)へ行なった大規模なアンケート調査を分析したもので、一般教諭が「通信を作成・発行することで大切にしていること」として「子どもの様子や声を伝える(77%)」、保護者の「学級通信が必要な理由」として「学校での子どもの様子がわかる(55%)」など、校内発行通信が「読まれることで情報を伝える」という、新聞の特性と一致することが示されている。また、管理職が考える「学級経営と学級通信の関係」では「学級経営をサポートする重要なメディア(73%)」が

最も多く、学級通信というメディアが管理職からも重要視されている実態も示されている。

ただし、この調査は実際に校内発行通信を受け取る児童生徒は調査対象でなく、また高等学校も調査対象でなかった。さらに、この調査では保護者への「学級通信は紙がよいか、Web がよいか？」の調査結果である「紙のほうがよい (52%)」「Web のほうがよい (11%)」を元に、なじみのある「紙の学級通信の人気」を述べているが、コロナ禍におけるオンライン活用の普及を受け、現在では異なる結果が得られる可能性も考えられる。

そこで本調査研究では、筆者が所属した兵庫県立伊川谷高等学校 2023 年入学生とその保護者を対象に、2 年次と 3 年次の計 2 回、学年通信に関するアンケートを実施することで、学年通信の教育的効果を生徒・保護者それぞれの視点から調べるとともに、その動向の変化について考察した。また、学年通信の紙配布、データ配信など多様化する保護者の閲読手段の変化を調べることで、保護者視点での有用な閲読方法についても考察した。

2. 調査の概要

(1) 学年通信について

兵庫県立伊川谷高等学校の 2023 年入学生 201 名は、入学時より筆者が制作する学年通信（以後『学年通信』と記す）を毎週配布しており、この学年通信の閲読に関するアンケート調査を行った。

学年通信とは、生徒や保護者が興味関心を持って閲読するよう、筆者が単独で取材・撮影・執筆・編集を行い制作する、日刊紙に模した紙面を持つ独自性の高い通信である。その特徴としては、

- ・新聞と見立てるため、ロゴに旧字体を活用し、四コマ漫画や高校生活の楽しさを演出する広告風の記事（以後『広告欄』と記す）を設ける
- ・「天性人語」を筆頭に、人権・ネットモラル・多文化共生等を意識したコラムや記事を多数持つ
- ・口語調の文章を多用するとともに、文中に漫画の効果音に似たフォントを挟むなど、読み手が読みやすくなる表現を積極的に活用する
- ・B 4 両面 7 段により高い一覧性・網羅性をもつ

・毎週発行を基本とする（3 年間で計 99 号発行）等がある。また、学年通信の発行は、学校における生徒の日常を伝えるだけでなく、「人権教育」や「情報教育」など多数ある「〇〇教育」について、日刊紙と同様に、生徒が記事を読むことで、継続的な学びに繋げることも目的としている。学年通信について、筆者は 1～2 年ごとに生徒や保護者からアンケートおよび聞き取り調査を行ない、改善を重ねながら 10 年以上（2025 年時点）その制作を続けており、公益財団法人理想教育財団が行う『第 15 回「プリントコミュニケーションひろば」』⁶⁾ (2019) ^{※註1}では最優秀賞・理想教育財団賞を受賞するなど、高い教育波及効果が見込まれている。今回のアンケート調査では、生徒や保護者の閲読率が高い校内発行通信を対象にする必要があるが、学年通信は生徒だけでなく多くの保護者にも閲読されていることが、福田⁷⁾ (2015) の過去の研究から判明しているため、今回のアンケート調査に活用した。学年通信の例を図 1 に示す。

(2) 調査実施時期

当該学年の家庭(生徒および保護者)を対象に、学級担任が行う夏の三者面談を利用して 2 回のアンケート調査を実施した。

1 回目：2024 年 7 月下旬 対象家庭 199 組

2 回目：2025 年 7 月下旬 対象家庭 189 組

これは三者面談という、学級担任と生徒および保護者が一堂に会する場面でアンケート調査を行うことにより、各家庭の親子揃ったアンケートの回収率が高まると考えたからである。また、1 回目調査後の 2024 年 9 月から、学年通信の配布・閲読方法として、「紙の印刷物」「学校ホームページのブログ欄への pdf ファイルの掲載」に加え、新たに『デジタル連絡ツール「スクリレ」^{※註2}による pdf ファイルの配信』を導入したため、2 回目はこれによる保護者の学年通信の閲読方法の変化も調査した。

(3) 調査方法

調査は生徒・保護者がそれぞれ別のアンケート用紙に記入し、学級担任が回収する形で行った。



図1 調査対象とした学年通信の例

アンケートの回答は任意のため、生徒または保護者の一方しか回答が得られていない家庭もある。

(4) 調査項目

アンケートの質問は一部を除き、生徒と保護者で同じもしくは相対する内容とした。その質問は、
 生徒用：選択肢回答5題、自由記述1題
 保護者用：選択肢回答6題、自由記述1題
 である。また、1回目と2回目では一部を除き同じ質問を行うことで、回答の変化についても調べた。アンケートの質問および選択肢の一覧を表1に示す。以下に番号ごとの質問内容を示す。

- 【1】学年通信がどの程度、生徒から保護者に渡されているかを、生徒と保護者に問う。
- 【2】学年通信について、どれ位の頻度で読んで

- いるかを生徒と保護者に問う。
- 【3】生徒に対しては、学年通信の紙面をどの程度読み込んでいるかを問う。保護者に対しては、学年通信について紙の印刷物で読むかデジタルのPDF版で読むかを問う。アンケート2回目時は新たに「スクリレ」で配信されたPDF版を読む方法も追加されていたため、その選択肢を増やしている。さらに、紙の印刷物・PDF版各々を読んでいる理由についても問う。
- 【4】生徒と保護者間において、学年通信を通して学校生活に関する会話の頻度について、生徒と保護者に問う。
- 【5】生徒と保護者が学校生活のどのような事柄について学年通信を通して知りたいのかを調べるため、学年通信紙面の内容を13項目に分

表 1 学年通信アンケートの質問内容（生徒用・保護者用）

番号	質問（生徒用）	質問（保護者用）
【1】	保護者に学年通信を渡していますか？ （いずれかの番号に○を付けて下さい） 1. 毎回渡している 2. だいたい渡している 3. あまり渡さない 4. 渡さない 5. その他（ ）	お子さんは学年通信を渡してくれますか？ （いずれかの番号に○を付けて下さい） 1. 毎回渡してくれる 2. だいたい渡している 3. あまり渡してくれない 4. 渡してくれない 5. その他（ ）
【2】	学年通信は読みますか？（いずれかの番号に○を付けて下さい） 1. 必ず読む 2. だいたい読む 3. あまり読まない 4. 読まない	学年通信は読まれますか？（いずれかの番号に○を付けて下さい）
【3】	【2】で1～3を選んだ方へ、紙面にある記事についてどの程度読んでいますか？ 1. すべて読む 2. 80% 3. 60% 4. 40% 5. 20%	【2】で1または2を選んだ方へ、印刷物とHP上のpdf版のどちらを読まれていますか？ またその理由をお答え下さい [読み方] 1. 紙の印刷物 2. HP上のpdf版 3. スクリレ添付のpdf版 ※3は2回目で追加の選択肢 4. 場合により紙とpdf版を併用 [理由] 1. 読みやすい 2. カラーである 3. どこでも読める 4. 手元に印刷物がない 5. その他（ ）
【4】	学年通信の内容について、保護者と話をすることがありますか？ 1. よくある 2. ときどきある 3. ほぼない	学年通信の内容について、お子さんと話をすることがありますか？
【5】	※[アンケート1回目の設問] 興味を持って読むものについて、5つ以内で○を付けて下さい（複数回答可） [アンケート2回目の設問] 学年通信に不要と思われる記事があれば、○を付けて下さい（最大5つまで） 1. 学年経営方針・教育観 2. 生徒の写真 3. 月間予定 4. 進路情報 5. 生徒・保護者へのお知らせ 6. 情報モラル等 7. 学習コラム 8. 広告欄 9. 学年行事の取り組み 10. 四コマ漫画 11. 生徒の感想や作品 12. 授業や学校生活の様子 13. 注意喚起記事 14. その他（ ）	
【6】		自宅では新聞を購読されていますか 1. 購読している 2. 購読していない
【自由記述】 学年通信を読んで、役に立った事、参考になった事、嬉しかった事などがあれば教えて下さい		

※下記の2点以外は、1回目と2回目で同じ質問を行っている
・2回目に保護者用の質問【2】「読み方」に選択肢「スクリレ添付のpdf版」を追加
・1回目と2回目で質問【5】の内容を変更

け、アンケートの1回目は「興味あるもの」、
2回目は「不要と思うもの」について生徒と保護者に問う。

【6】各家庭の新聞購読状況の調査であり、保護者のみに問う。

【自由記述】学年通信に対する意見や感想からその特徴を調べるために、自由記述で生徒と保護者に問う。

（5）回収したデータの集計処理

2回のアンケート調査で得られた回答状況を表2に示す。ここで「親子揃った回答数」とは、生徒とその保護者双方の回答が揃った数を表す。

表 2 アンケートの回答状況

	対象の 家庭数	生徒の 回答数	保護者の 回答数	親子揃った 回答数
1回目	199組	154名	150名	148組
2回目	189組	161名	164名	160組

回収されたアンケートは、以下に示す①～⑦に従って集計した。

- ① 必要な選択肢が選ばれていない項目があるアンケートについても、選択肢が選ばれている他の項目については有効とした。
- ② 1つの家庭において両親が個別に回答をしていたが、回答に不備がなく自由記述も回答していた一方のみを有効とした。
- ③ 【2】で「だいたい読む」と「あまり読まない」を併記した保護者回答が1回目と2回目で各1枚あったが、これらについては「だいたい読む」の方を有効とした。
- ④ 【2】で「読まない」を選択した生徒および、「あまり読まない」「読まない」を選択した保護者が【3】を回答していた場合、【3】の回答は無効とした。
- ⑤ 【3】において「紙の印刷物」と「HP上のpdf版」、もしくは「紙の印刷物」と「スクリレ添付のpdf版」の2つを選択していた保護者回答については、選択を「場合により紙とPDF版を併用」に修正した。
- ⑥ 【3】において「理由」を2つ選択していた保

護者回答については、いずれも有効とした。

- ⑦ 【5】において、すべての選択肢を選ぶ生徒・保護者がいたため、6つ以上選択している回答については、その選択すべてを無効とした。

3. 調査結果の分析と考察（単純集計結果より）

以下に【1】～【6】の調査結果の分析と考察を示す。【1】～【4】および【6】は回答を単純集計し、その割合を帯グラフ（図2～図6および図9）に示す。その際、【1】【2】【4】の3題については生徒と保護者の質問が同じもしくは相対するため、その回答結果を並べて示した。また、この3題は生徒と保護者で質問または選択肢の文章が一部異なっているため、保護者用の文章については《 》を付けて記している。

【5】については、選択肢ごとの集計数をアンケート1回目の「興味を持って読むもの」が上方に、2回目の「不要だと思われる記事」が下方に伸びる棒グラフ（図7）に示す。

（1）学年通信の受け渡しについて

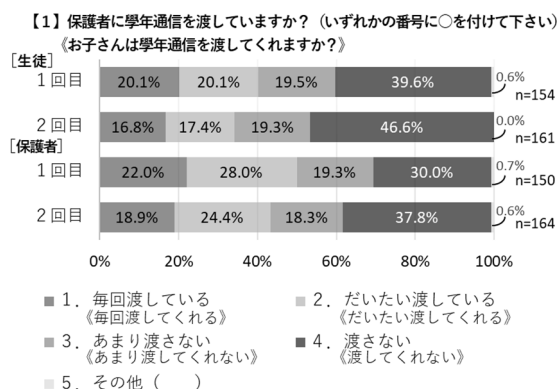


図2 学年通信の受け渡し

1回目と2回目において、生徒と保護者間の学年通信の受け渡しの認識に多少の差はあるが、全体的に大きな違いはみられなかった。1回目と2回目では生徒の学年通信を渡す率が減少しているが、これは1回目のアンケート後に「スクリレ」を用いた配信を始めたことにより、保護者が学年通信を生徒から渡される前に読むことが可能になったためと推察する。

（2）学年通信を読んでいるかについて

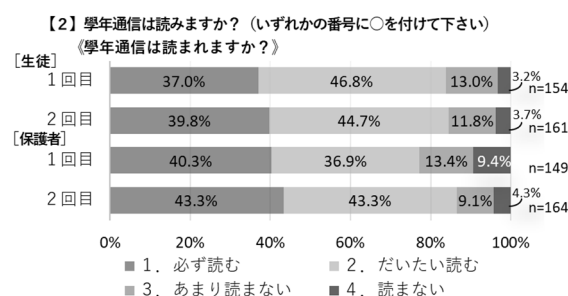


図3 学年通信を読んでいるか

「必ず読む」「だいたい読む」の回答を合わせて「学年通信を読んでいる」と捉えたとき、生徒の回答は1回目と2回目ではほぼ同じである。これは「教室にて配布された紙の印刷物を読む」という、学年通信の閲読方法に変化がないからであると考ええる。その一方、保護者の回答は9.4ポイント増加しているが、これは、1回目のアンケート後に「スクリレ添付のpdf版」で読むという閲読方法が増えたためと考える。

（3）紙面の読む割合と読み方について

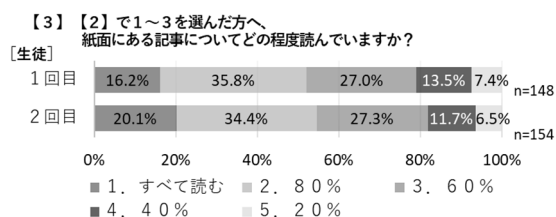


図4 紙面の記事を読む割合（生徒）

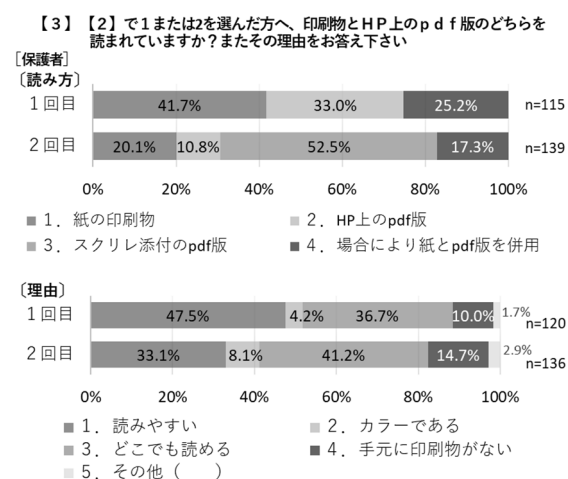


図5 学年通信を読む方法（保護者）

図4は生徒のみの質問である。最も変化の大きかったのが、「すべて読む」の項目で、3.9ポイントの増加がみられたが、全体的に1回目と2回目

で大きな変化は見られなかった。

図5は保護者のみの質問である。学年通信の「読み方」において「紙の印刷物」の回答は1回目では41.7%であり、この数字は【1】の回答における生徒の「毎回渡している」「だいたい渡している」の合計40.2%との差が1.5ポイントと近似している。しかし、2回目では両者に14.1ポイントの開きが生じている。また、「紙の印刷物」「HP上のpdf版」の回答は、ともに2回目で20ポイント以上減少しているが、代わりに2回目で新たに追加された選択肢である「スクリレ添付のpdf版」が52.5%と半数を超えていた。「スクリレ」は学年通信を発行時に添付ファイルとして保護者に送信するため、半数以上の保護者が「スクリレ」にて学年通信を読むようになったと推察する。

次に「理由」において、「カラーである」の回答が他よりも数値が低いため、保護者が学年通信を読む際にカラーかモノクロかの違いを重要視していないことがうかがえる。〔理由〕については後述の「設問間クロス集計結果」にて詳しく考察する。）

（４）学年通信を通じた会話の割合について

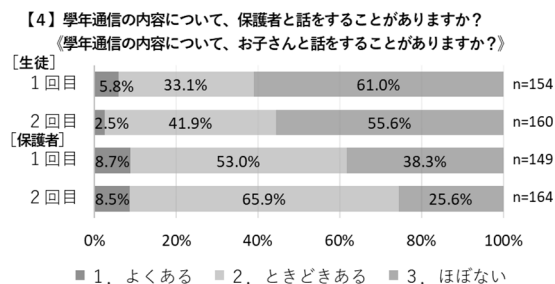


図6 学年通信を通じた会話の割合

「よくある」「ときどきある」を合わせて「学年通信の内容について、親子間で会話がある」とすると、生徒と保護者間でその認識に大きな差があった。その差は1回目では22.8ポイント、2回目では30.0ポイントあり、いずれも保護者の方が高かった。この理由として、保護者（親）が「学年通信から得た内容」を生徒（子）に話しかけているのに対し、生徒（子）は「学年通信から得た内容」と認識せずに応えている場合が多いのではないかと推察する。（後述の「設問間クロス集計結果」に

て詳しく考察する。）

（５）学年通信記事への興味関心について

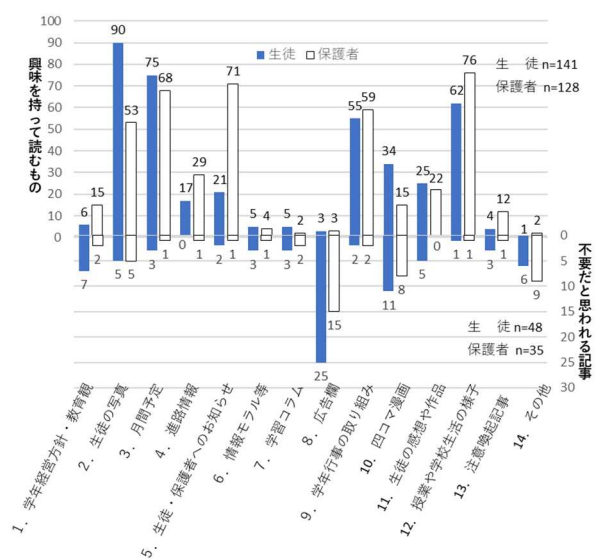
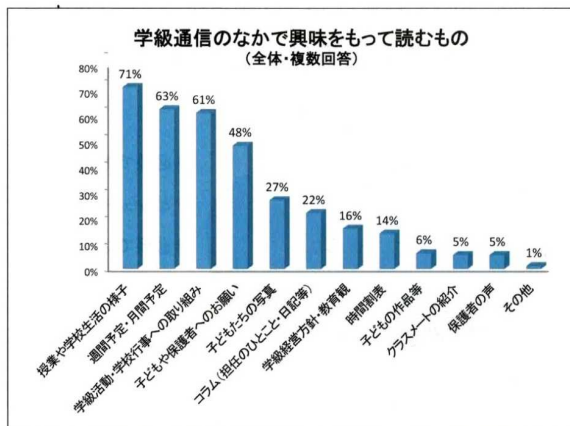


図7 学年通信記事への興味関心

集計結果を図7に示す。グラフの上側は1回目に行った「興味を持って読むもの」の結果で、下側は2回目に行った「不要だと思われるもの」の結果である。生徒・保護者の各記事に対する興味の有無については、「不要だと思われるもの」として「広告欄」が顕著に示された。「広告欄」は、学年通信の興味関心を高めるために活用していたが、生徒・保護者ともに8割以上が学年通信を読む状況では、その必要性も無くなったものと判断できる。「四コマ漫画」は、図7では「興味を持って読むもの」「不要だと思われるもの」のいずれにも一定数の回答があった。また、「情報モラル等」「学習コラム」は、図7では「興味を持って読むもの」「不要だと思われるもの」のいずれも回答が少なかった。この結果より、「四コマ漫画」は興味あるが必要性を感じない、「情報モラル等」「学習コラム」は興味無いが必要性を感じるという認識を生徒・保護者ともにもっているものと考えられる。

保護者における興味関心が高い項目については、「学校における各種通信の実態と教育効果に関する調査研究報告書」における、小中学生の保護者に行ったアンケート調査「学級通信のなかで興味をもって読むものはなんですか？（複数回答）」の結果（図8）と類似点が多く見られた。



※引用 公益財団法人理想教育財団 学校における各種通信の実態と教育効果に関する調査研究会「学校における各種通信の実態と教育効果に関する調査研究報告書」, 2018年9月, p. 69

図8 小中学校保護者アンケート結果

(6) 自宅での新聞購読について

【6】自宅では新聞を購読されていますか？

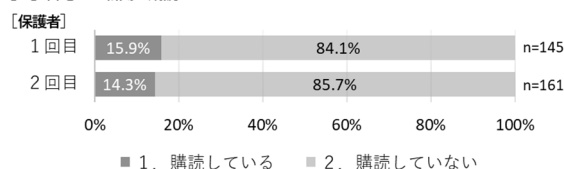


図9 自宅での新聞購読の有無

自宅で新聞を購読している率は1年間で1.6ポイントの微減であったが、いずれも公益財団法人新聞通信調査会の「第17回メディアに関する全国世論調査」⁸⁾(2024)による新聞購読率53.8%を大きく下回った。2回目の調査時で、新聞を購読している家庭は全体のほぼ7分の1であった。

4. 調査結果の分析と考察(設問間クロス集計結果より)

(1) 新聞購読と学年通信の読み方の関係

保護者において、自宅での新聞購読の有無と学年通信の閲読方法および媒体との関係性を調べた。その結果を図10に示す。

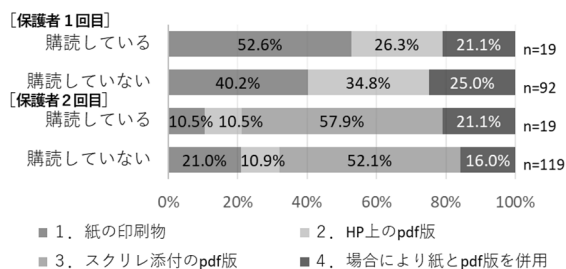


図10 新聞購読と学年通信の読み方の関係

1回目における「紙の印刷物」を読む割合は、新聞を購読している保護者の方が、購読していない保護者より12.4ポイント高かった。しかし、2回目においては逆に10.5ポイント低かった。2回目においては選択肢に「スクリレ添付のpdf版」が追加されており、1回目との単純な比較はできないが、家庭における新聞の購読が学年通信閲読時の方法や媒体には影響しないものと考ええる。ただし、1回目と2回目は、ともに新聞を購読している保護者の母数が19名と少数であることから、これらを結論づけるには至らない。

(2) 学年通信の読み方とその理由

次に、保護者の学年通信の読み方と、その理由についての関係性を調べた。その結果を表3に示す。選択肢にある4つの読み方(「紙の印刷物」「HP上のpdf版」「スクリレ添付のpdf版」「場合により紙とpdf版を併用」)において、その理由で高い値を示す項目(表3における網掛け箇所)が、それぞれの読み方の有用性を表しているものと考えられる。

「紙の印刷物」の回答では、「読みやすい」という理由が顕著に高い値を示している。これは学年通信が日刊紙を模した紙面レイアウトであるために生じた、紙の印刷物のもつ一覧性・網羅性が大きな要因ではないかと考える。

「HP上のpdf版」「スクリレ添付のpdf版」の回答では、「どこでも読める」という理由が他よりも高い値を示している。これは、pdf版を読む主な媒体としてスマートフォンが想定されるため、その「いつでもどこでも使える」という特性と合致している。

「場合により紙とpdf版を併用」の回答では、前述の2つの理由(「読みやすい」「どこでも読める」)がともに高い値を示している。

一般社団法人日本新聞協会が行った「2015年全国メディア接触・評価調査」(2015)⁹⁾の分析結果では、電子版と紙の新聞の「平日の閲読場所」の問いに対し、「紙の新聞閲読者」の大多数が「自宅」であるのに対し、「電子版読者」では「自宅」「職場・学校」「移動中」など複数の場所に分散された

(表4)。この結果は、今回の学年通信の pdf 版を読む理由として高い値を示した「どこでも読める」と一致している。

表3 学年通信の読み方と理由の関係

「紙の印刷物」を回答			
理由	1回目	2回目	
1. 読みやすい	43: 91.5%	23: 85.2%	
2. カラーである	0: 0.0%	1: 3.7%	
3. どこでも読める	4: 8.5%	1: 3.7%	
4. 手元に印刷物がない	0: 0.0%	0: 0.0%	
5. その他	0: 0.0%	2: 7.4%	
計 (名)	47	27	

「HP上のpdf版」を回答			
理由	1回目	2回目	
1. 読みやすい	5: 12.5%	2: 13.3%	
2. カラーである	3: 7.5%	1: 6.7%	
3. どこでも読める	25: 62.5%	10: 66.7%	
4. 手元に印刷物がない	7: 17.5%	2: 13.3%	
5. その他	0: 0.0%	0: 0.0%	
計 (名)	40	15	

「スクリーン添付のpdf版」を回答			
理由	1回目	2回目	
1. 読みやすい	-	10: 14.9%	
2. カラーである	-	5: 7.5%	
3. どこでも読める	-	36: 53.7%	
4. 手元に印刷物がない	-	16: 23.9%	
5. その他	-	0: 0.0%	
計 (名)	-	67	

「場合により紙とpdf版を併用」を回答			
理由	1回目	2回目	
1. 読みやすい	9: 30.0%	10: 38.5%	
2. カラーである	2: 6.7%	4: 15.4%	
3. どこでも読める	14: 46.7%	9: 34.6%	
4. 手元に印刷物がない	5: 16.7%	2: 7.7%	
5. その他	0: 0.0%	1: 3.8%	
計 (名)	30	26	

表4 新聞の平日の閲読場所

	(%)	
	電子版 読者 (n=363)	紙の新聞 (朝刊) 読者 (n=2,693)
自宅	58.1	84.2
職場・学校	37.5	11.5
移動中(通勤・通学途中も含む)	35.8	2.3
喫茶店など 飲食店	4.4	2.6
図書館・公民館 など	-	1.3
その他	1.1	2.0

一般社団法人日本新聞協会
「2015年全国メディア接触・評価
調査」(2015)より
※表の元タイトルは「平日の閲読場
所」である

(3) 学年通信の親子間での会話頻度の認識

学年通信の内容について、家庭内での親子の会話頻度の認識の違いを調べるため、親子揃った回答のみを抽出し、マトリクス分析を行った。その結果を表5に示す。

表5 学年通信の親子間での会話頻度の認識

学年通信を通した生徒と保護者間の会話頻度の認識 (1回目)

		保護者			計 (名)	
		よくある	ときどきある	ほぼない		
生徒	よくある	2: 1.4%	4: 2.7%	2: 1.4%	8	5.4%
	ときどきある	8: 5.4%	36: 24.3%	6: 4.1%	50	33.8%
	ほぼない	3: 2.0%	38: 25.7%	49: 33.1%	90	60.8%
計 (名)		13: 8.8%	78: 52.7%	57: 38.5%	148	100.0%

学年通信を通した生徒と保護者間の会話頻度の認識 (2回目)

		保護者			計 (名)	
		よくある	ときどきある	ほぼない		
生徒	よくある	2: 1.3%	2: 1.3%	0: 0.0%	4	2.5%
	ときどきある	11: 7.0%	51: 32.3%	5: 3.2%	67	42.4%
	ほぼない	1: 0.6%	49: 31.0%	37: 23.4%	87	55.1%
計 (名)		14: 8.9%	102: 64.6%	42: 26.6%	158	100.0%

生徒と保護者間での認識を割合で表したとき、認識に最も差が出たのは、

生徒「ほぼない」× 保護者「ときどきある」であり、次に差が出たのは、

生徒「ときどきある」× 保護者「よくある」であった(表5における網掛け箇所)。この箇所は1回目と2回目で一致していた。いずれも、保護者は生徒が考えている以上に学年通信の内容を元に生徒と会話を行っているとは認識していることが分かる。この理由として、保護者(親)が学年通信から得た学校内の様子を元に生徒(子)に話しかけていても、そのことに生徒(子)が気付いていない場合があるからだと推察する。

(4) 自由記述について

【自由記述】「学年通信を読んで、役に立った事、参考になった事、嬉しかった事などがあれば教えて下さい」において、記入のあった回答は、

生徒 1回目 62名 2回目 51名

保護者 1回目 33名 2回目 54名

(「特になし」等の回答も含む)

であった。これらの回答には学年通信が生徒や保護者にもたらす教育効果が示されていると考え、生徒と保護者それぞれについて、自由記述文中にあるキーワードの重要度を直感的に確認できるテキストマイニングによる分析を行った。今回の分析に用いたユーザーローカル テキストマイニングツールは、一般的な文書ではあまり出現しないが、調査対象の文書だけによく出現する単語は重視する TF-IDF 法の仕組みを取り入れている。ワードクラウドによりその単語の出現度に応じた大きさで表したものを図11に示す。

また実際、自由記述に書かれていた内容の代表的なものを以下に示す(本文ママ)。

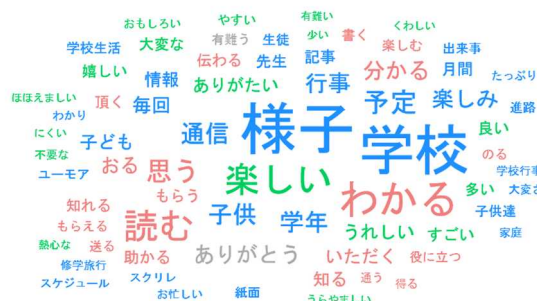
【生徒の自由記述】

- ・月間予定を見てテストから逆算して勉強できてよかった。
- ・学校行事の記事が書かれていて、楽しかったなあと振り返る所が良い。友達や自分の写真がのっていると面白い。
- ・四コマ漫画で、いじめ等の事を考えて作ってく

[保護者の自由記述]

- 新しい行事 思い出しやすい クラス 日常 多い わかる すごい 興味深い たのしい 見やすい くれる 分かる 載る よい 様子 学校行事 友達 書く 学校 便利 無い 助かる 面白い 役に立つ 月間 四コマ漫画 できる 道端 嬉しい 予定 写真 先生 役立つ テスト 朝 読まくら 読む おもしろい の 見れる 楽しい 写る 学 知れる 良い ありがたい 確認 まとめる 確かめ ありがとう いじめ うつる うれしい 情報 いい 通信 上手い 楽しみ 分かりやすい くださる 参考 学年 今後 わかりやすい

(a) 生徒記述



(b) 保護者記述

※ユーザーローカル テキストマイニングツール
(<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析

図 11 自由記述のワードクラウドによる分析

校内における生徒の様子」を知るための重要な情報源になっていると考えられる。

前述以外では、生徒・保護者のいずれも「楽しい」「うれしい」等、学年通信に対する肯定的なキーワードが中心となっていた。

5. 全体のまとめ

學年通信を「必ず読む」「だいたい読む」を合わせると、2回目の調査結果では生徒で84.5%、保護者で86.6と非常に高い値を示した。また、保護者に至っては1回目の調査結果より9.4ポイント高い値を示しており、これはスクリレによる保護者への學年通信 pdf 版の送信が、ホームページからダウンロードして閲読することを手間と考える保護者を取り込んだ結果であると推察される。その根拠としては、2回目の調査でスクリレ添付の pdf 版で閲読する保護者が52.5%と全体の半数を超えていることがあげられる。また、紙の學年通信を読む保護者の大半は、その理由に「読みやすい」をあげており、pdf 版を読む理由は「どこでも読める」であった。これは日刊紙の閲読方法にも共通すると考える。

學年通信の内容に関する親子間での会話頻度の認識の違いから、保護者（親）は生徒（子）が考えている以上に学校内の情報を學年通信から得ていることが判った。學年通信記事への興味関心について、「生徒・保護者へのお知らせ」の値が生徒と保護者で最も大きな差が出ていることから、學年通信が保護者にとって学校内の情報を知る重要な役割を担っているといえる。また、自由記述からは、生徒は学校内の身近な出来事が記事として載ることを楽しみにしており、保護者はその内容を知ること感謝を示していることが分かった。これらのことより、高等学校においても學年通信は、小中学校と同様に、保護者にとって学校内での生徒の様子を知るために「教師が作成する新聞」という重要なメディアとして活用されていることが判明した。

「スクリレ」など、教師と生徒・保護者をつなぐコミュニケーションツールの積極的な活用により、学校からの発信を従来に比べ、より確実に生

徒・保護者の元へ届けことが可能となった。これらのツールでは、保護者は生徒から紙媒体を手渡されなくとも、空いた時間に場所を選ばず閱讀が可能であるという利点がある。しかしその反面、印刷紙面の持つ一覧性や網羅性に劣るため、伝える内容は要点を絞り簡潔にまとめる方が効果的であるとする。すなわち、学校内の情報を児童生徒やその保護者へ発信するという点で、コミュニケーションツールの活用は、校内発行通信とは異なる工夫が必要になると考える。今回の調査では、紙の学年通信と同内容のものを pdf 版にて配信した。しかし、近年の教師の働き方改革を踏まえ、情報を簡易に伝えることを目的に、校内発行通信の代わりにブログを活用する学校も存在する。ブログ形式では一度に伝えられる情報量は少なく、紙面という概念も存在しないため、従来の校内発行通信と同等の効果が得られるとは限らない。このことを踏まえ、教師の負担軽減と持続可能な情報発信を目的に、学校の様子をブログ形式での配信中心にて行うのであれば、今回の調査結果などを基に、保護者が望む情報を優先して配信することが望ましいと考える。

最後に、本稿ではアンケート調査の分析結果報告を優先したため、その調査に活用した学年通信についての説明は最低限にとどめた。しかし、生徒は日刊紙を「本物の新聞」、学年通信を「私たちの新聞」と呼び、筆者の取材内容が学年通信に載ることを楽しみにするなど、学年通信を身近な新聞の 1 つとして捉えている状況が散見された。そこで筆者は今後、この教育に活用する新聞として開発した学年通信の 14 年間に渡る研究過程をまとめ、報告することを約束する。

註 1

教職員が編集・制作し定期的に発行している校内発行通信を対象に、「継続性」「ニュース性」「ふれあい性」「正確・公平性」「読みやすさ」「双方向性」「独創性」「教育波及効果」などの観点から審査を行う作品コンクールで、2004 年から 2024 年の間に 19 回行われた。

註 2

理想科学工業株式会社が提供する学校生活をサポートするアプリケーション。教師からの連絡やプリントの配信、保護者からの生徒欠席連絡など、教師と保護者をつなぐコミュニケーションツールとして活用される。

参考文献

- 1) 鈴木信男『学級・学年通信と四季のメッセージ』白順社、1995 年。
- 2) 吉成勝好『見るだけでアイデアがひらめく 学級通信ネタ&デザイン集』公益財団法人理想教育財団、2016 年。
- 3) 文部科学省『学校現場における業務改善のためのガイドライン』、2015 年 7 月。
- 4) 文部科学省『「公立小学校中学校等教員勤務実態調査研究」調査研究報告書』株式会社リベルタス・コンサルティング、2024 年 3 月。
- 5) 学校における各種通信の実態と教育効果に関する調査研究会『学校における各種通信の実態と教育効果に関する調査研究 最終報告書』公益財団法人理想教育財団、2018 年。
- 6) 公益財団法人理想教育財団『第 15 回「プリントコミュニケーションひろば」入賞作品集』公益財団法人理想教育財団、2019 年。
- 7) 福田浩三「学区拡大に対応した保護者と教師間での連携した生徒指導を行うための『学年通信・学級新聞』の効果的表現方法および活用法に関する研究』『未来教育研究所紀要』第 5 集、pp. 149-158、2015 年。
- 8) 公益財団法人新聞通信調査会『第 17 回メディアに関する全国世論調査 (2024 年)』、2024 年 10 月。
- 9) 一般社団法人日本新聞協会『2015 年全国メディア接触・評価調査』、2016 年 6 月。